

北の物好きがナビゲート

礼文華観光案内

試食版



礼文華観光案内

水瀬雅美@虹の卵です。

突然ですが皆さん、「秘境」に興味はありますか？

「秘境」と一言に云つてもいろいろありますが、今回は北海道の室蘭本線、礼文華（れぶんげ）峠にこっそり存在する「秘境駅」小幌（こぼろ）駅とその周辺の魅力をご案内します。

この小幌駅、東に礼文華峠、西に静狩（しずかり）峠。南は海で、北は密かに太平洋と日本海の分水嶺。わかりやすく言えば「三方を山、一方を海」に囲まれた険しい地形に存在し、駅に続く道路もないため一般には「鉄道でしか行けない」

「降りても何処にも行けない」「陸の孤島」の駅とされています。そんな「秘境」のど真ん中に存在する駅ですが、実は「**鉄道でしか行けない**」「**降りても何処にも行けない**」**というのは誤り**です。道を知っていれば簡単な山登りの服装でも最寄りの国道に出ることができず、史跡や自然が生み出した美しい地形と出会うこともできます。

・・・というコンセプトで何か書けないかなあと何となく考え始めたのが2008年初頭の話。それから色々ありまして、2010年5月にようやく「礼文華遭難 観光案内 PreviewVersion」というタイトルでぺらい本にまとめることができたのですが、ありがたいことに結構な反響を頂きまして、おかげさまで今回「完全版」としての「礼文華観光案内」のお届けとなりました。

この間、いろいろありました・・・という話はとりあえず横に置いておいて。内容に関してもべらべらっとページを手繰って頂いた方が早いと思うので割愛しまして、ちよろっと注意を。今回右ページ柱に「初級」「中級」「上級」「特級」というインデックスを入れました。そのページで紹介しているルート「難度」を示す主観尺度ですが、概ねこのような感じですので実際に訪れる際の参考にして頂ければ。

初級

季節によっては草木で道がわかりにくくなることがありますが、概ね道が整備されており、特に危険のないルートです。軍手があれば吉です。

中級

きちんとした道ではないところを通ったり、季節によっては草木で道が埋もれてしまうことがあります。大きな危険はないルートです。軍手と熊鈴を付けて歩きましょう。

上級

はつきりとした道や道標のないルート、干潮時にのみ通過可能な場所などを通過します。十分に注意して探索して下さい。軍手がないと怪我します。靴も足首を保護し、滑り止めの利くものをお薦めします。

特級

道ではありません。

なお、本書では「靴の裏が濡れる」ところまでを「通過可能」とし、それ以上に濡れる可能性のある水場は通過不能と判断しています。

全般に言えることですが、基本的に人気が無く、駅とはいつでもほとんど列車の停まらない場所です。可能であれば単独行動は避け、前日や当日が悪天候の場合などは訪問を控えて下さい。本格的な登山装備は必要ありませんが、荷物はリュックに入れて両手は空けておいて下さい。また、時期によって積雪・樹木・潮位の関係で通過できない場所もあります。通過に無理を感じたら潔く引き返す覚悟を決めておいて下さい。

そんな礼文華・小幌の魅力が少しでも伝われば・・・偉いです。

水瀬雅美 拝

Index

まえがき	4p
Section#1 初級 ~ 列車を降りれば、カーニバルが始まる。 「小幌駅」いんと3だくしよん	6p
Section#2 初級 ~ 意外ない3い3, 駅周辺。 見て歩く「秘境」	12p
Section#3 中級 ~ ここを通る者, 全ての望みを捨てよ! 「秘境」からの脱出	16p
Section#4 中級 ~ かつて旅人はこの地を避けて通ったという。 酷道37号線・礼文華峠	20p
Section#5 中級 ~ だからこそ 行ってみたいと思わない? 夜の幌駅/冬の幌駅	26p
Section#6 資料 ~ ふたりは 戦争遂行のために生まれた。 ふたつの礼文華峠信号場	28p
Section#7 上級 ~ 礼文華 小幌の, 最果ての風景。 地の果てを目指してみる	32p
Section#8 特級 ~ 幌駅への「正しい」徒歩ルート。 その扉をこじ開ける!	40p
Section#9 資料 ~ ドライブがてら, 寄ってみよう。 礼文華の鉄スポット	44p
Section#10 資料 ~ ここまでの説明でわかった気になってない!? もっと! 礼文華観光案内	48p
あとがき	52p



礼文華観光案内



「秘境駅」という言葉をご存知でしょうか。

「何でこんなところに駅が？」と叫びたくなるくらいに山の中、原っぱのただ中、そんなところに存在する駅を指す言葉です。駅を降りても人が住むわけではなく、人が活動する場所があるわけでもなく、下手すれば道すらありません。

利用する人が居ませんから列車もあまり来ませんし、道もなければ訪問すること自体が難しくなります。

北海道は礼文華峠の西の谷間に存在する小幌駅は、そんな駅の中で最も「秘境度」が高いとして有名な駅です。三方を山、一方を海に囲まれた沢地形に存在し、駅からどこかへ続く「まともな」道は存在しません。

この駅で降りようとしたら列車の運転士殿に「お姉さん、本当にここで降いの!？」なんて声をかけられたことすらありますよあたしやあ。そのくらいとんでもない駅です。

国土地理院「電子国土」より

北海道



「小幌駅」いんと3だくしよん



しかしまあ世の中には物好きな人がいるもので、「怖い物見たせ」なのか訪れる人がいたり、ちよちよテレビや本で紹介されたりしています。近場の海岸はカレイが釣れるようで、夏場には釣り人の姿も見受けられます。

←写真は南から見た駅の写真です。奥の方に国道の橋が見え、自動車の走行音が届きますが、そこまで辿り着くにはちよつと骨が折れます。

手前に見える小屋はかつてここに住み着いていたという通称「仙人」がこしらえたもの。2008年夏前に撤去されたとのことで、現在は存在しません。件の「仙人」、2006年頃に倒れているところを釣り人に発見され、ヘリで救急搬送されたがその後亡くなったとか。有名な方だったらいいんですが、倅か不倅か出会ったことないんですよ・・・合掌。

ところで、小幌駅では列車が来るとしばしば辺り一面に黒い煙が薄く立ちこめます。ここを走る列車はみんなディーゼルエンジンぶん回して走る連中ですが、特に札幌・東室蘭方面から函館・長万部方面へ向かう列車は礼文華峠の登りでカー一杯ぶん回し、ついでに大量の排ガスをトンネルの中に残していきます。列車通過後にトンネル内から煙が吸い出され、しかして小幌駅は黒く煙る、と、この写真がトンネルから煙が吹き出てくる様子なんですが、写真ではわかりにくいかな。この煙のおかげで函館方面行きホームの駅名票やミラーは煤で真っ黒です。

Point!

トンネル内のサイレンが唸り始めたら列車が接近している合図。列車通過時はホームから離れるか、反対側のホームに移るかすることをすすめ、狭いホームでは「後ろに下がる」こともできないから、特急が来たりするとかな〜り怖い思いをするぞ♪

他にも新礼文華山トンネルは暴風は吹き出すわ、煙は吐き出すわ、ぼーっと汽車を待ちながら時々起こるイベントを待つのも面白いかも？



礼文華観光案内

「そんなすごい駅ならドライブがてらちよつと見に行ってみようよ！」なんていつて車の鍵を取りに行ったあなた、ちよつとお待ち下さいな。先述の通り、駅に続くまともな道がないため、車でちよつと立ち寄ることができないんですわ。それじゃあ汽車で行くか・・・といつても、実は停まる列車も少なかったり。というわけで、札幌を起点としたモデルコースをいくつか紹介します。なお、列車時刻等はMay5/2011時点のものです。実際のお出かけの際は必ず最新の情報を確認して下さい。最近ですとDec4/2010ダイヤ改定を受けてこつそり午後の列車の時刻が変わっています。

紙面の都合により細かい列車時刻は省略しています。詳しくはJR北海道WebSiteの時刻案内、駅窓口等でお確かめ下さい。

Plan-1：パーク・アンド・ライド（?）

往路：礼文0826発→小幌0834着

復路：小幌0924発→礼文0930着

滞在時間50分。初めての方には**これが最もお勧め**です。小幌駅についてまもなく上野からのブルートレイン「北斗星」の通過が見られるのもこのコースの特徴。ところで礼文駅ってどこ？小幌駅のとなりの駅です。そこまで何で行くの？早起きして車で行きましょう。「ドライブがてらちよつと見に行ってみようよ」といづのが実は一番のお勧めだったりします。礼文駅前には十分な駐車スペースがあります。



Point!

小幌駅に停車する列車は1日に東室蘭方面3本、長万部方面5本しかありません。発車時刻には十分注意して下さい。

また、各プランの運賃は

Plan-1：礼文～小幌往復¥420-プラスガス代など

Plan-2：「一日散歩きつぷ」利用で¥2,200-

Plan-3：「Rきつぷ（札幌～長万部）」プラス長万部～小幌往復で合計¥10,700-

・・・となっています。



Plan-2a：汽車で行く鉄板コース

(ただし本当に千う見)

往路：札幌 1045 発

→ (苫小牧・東室蘭乗り換え) → 小幌 1456 着

復路：小幌 1514 発

→ (東室蘭・苫小牧乗り換え) → 札幌 1938 着

滞在時間 18 分。「うつひゃあ、本当に凄いとこさだなー」と云っている間に帰りの汽車が来ます。滞在時間より普通列車の堅いシートに揺られている時間の方が遙かに長い、あまりお勧めできないコースです。

Plan-2b：汽車で行く鉄板コース

(素人にはお勧めできない)

往路：札幌 0624 発

→ (東室蘭乗り換え) → 小幌 1134 着

復路：小幌 1514 発

→ (東室蘭・苫小牧乗り換え) → 札幌 1938 着

滞在時間は 4 時間弱。11:34 の次に小幌駅に停車する汽車がこの時刻までないのでこうなっちゃいます。滞在時間が長いので初めての方にはお勧めできませんが、小幌駅を訪れる物好きないし釣り人には定番のコースのようです。繰り返しますが、Dec4/2010 のダイヤ改定で帰りの汽車の時刻が繰り上がっています。お乗り遅れのなさいませぬよう。



Plan-3：延々汽車に揺られていたくない

(ブルジョア向け)

往路：札幌 0700 発「特急S北斗1号」

→ (長万部乗り換え) → 小幌 0924 着

復路：小幌 1134 発 → 長万部 1153 着

→ 適当な特急列車で札幌へ

滞在時間はちよつと長めの 2 時間強。帰りは長万部で昼食の後、適当に特急捕まえて札幌まで〜となります。特急利用で運賃は凄いいことにはなりますが、こうなったらもう開き直りましょう。長万部で昼食だと、駅前の食堂「かなや」のカニ天丼(¥1,350)がお勧めです。お土産に同店のお弁当「かにめし(¥1,050)」もどうぞ。特急列車内でも販売している、いわゆる長万部の駅弁です。

駅に降り立ってどんな光景が広がっているか。時期によって大きく異なります。4月5月頃であれば南側の海に向かって大きく視界が開けているでしょうし、7月頃であればあたりは草木に埋まって駅から出られないかもしれません。11月頃であれば草木も枯れてまた見通しが良くなりますが、2月に踏み込めば雪に閉じ込められてやはり駅から出られないかもしれません。

駅を東西から挟むトンネルの間は概ね 80 メートル。ここに 1 輦分とちよつとの長さしかない小さなホームがふたつあるだけで、あとは待合室すらないという駅です。駅の南北に小さな小屋がひとつずつありますが、JR の人専用の小屋のようで普段は鍵がかかっています。南側にトイレもあるんですが・・・使えるのかな、これ。

そうそう、ローカル駅によくある「駅ノート」も、東室蘭方面ホームの←写真の場所にあります。駅にきた感想など綴っていくと良いかもしれませんが・・・が、2010 年秋頃から見かけないんですよ。あつれえ？

礼文華観光案内

さて、巷では「どこにも行けない」「何も無い」などと伝えられる小幌駅ですが、そんなことはありません。ちょっと駅周辺を歩いてみましょう。

まずは線路の北側にある管理小屋。その奥の草地を分けてみましょう。建物跡と、電気設備の残骸が埋もれています。どうやら昔はここに電力供給設備があったようなのですが・・・何でこんなカタチで放られているんでしょうねえ。

沢を渡った先、山の上の方を見ると、笹藪に埋もれたもうひとつの電気設備の残骸を見ることができます。変圧器三兄弟ですね。こちらは接近は危険ですので、遠くから眺めるだけにしておきましょう。

さて、次は東側のトンネルの上に登ってみます。北側から回り込むと登ることができます。ぱっと見では南側から登るのが正解のようですが、実は逆。みや、南側から登っても良いんですけど、沢に落ちないように注意して下さいね？

ともあれ、トンネルの上に登って笹藪を分けていくと、長万部方面の線路の頭上に送風機のようなモノが設置されているのがわかります。そういえば埋もれた電気設備に250kW送風機が云々というプレートが貼り付けられたボックスがありましたが、この関連ですかね？ これまた草に埋もれて動いていないようですが、一体何モノなんでしょうねえ。

次は線路の南側に回ってみましょう。管理小屋正面のトイシ脇に万力が生えてます。何のためにあるのか？ そんなこと聞かれたって困ります。知らんがな(´ω`)シホーン



「小幌駅」いんと3だくしよん

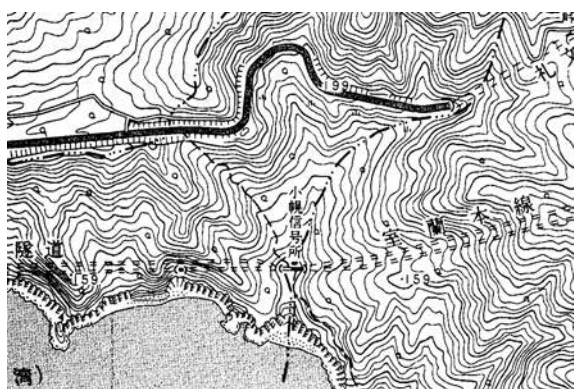
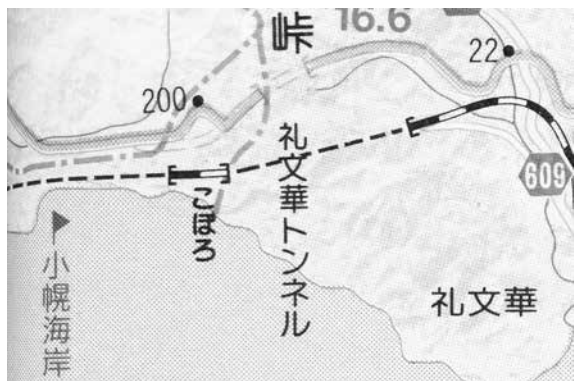
初級

中級

資料ほか

上級

特級



そもそも何故こんなところに駅ができたのか。昔からこんな「秘境」だったなんてことはなくて、少し古い地図を紐解けば海水浴場やキャンプ場があったと記されています。←図はちよつと印の位置がずれているような気がしますけどね（汗）

小幌駅は両隣の静狩駅と礼文駅のちょうど真ん中付近にあり、初めは列車行き違いのための施設（信号場）として1943年に開設されました。当時は単線だったんですね。ついでに旅客の取扱もしていたそうで、1967年の地図には「小幌信号場」から国道への山道も記されています。

その後線路は複線化され、列車行き違いのための施設から1967年に「仮乗降場」、そして1987年に「駅」として生まれ変わりました。しかし周囲は発展するどころか1971年の地図では国道への山道が消され、現在では道なんて跡形もありません。その後時代の移ろいと共に人の足は遠のき、いつしか「秘境」と呼ばれるまでになってしまったようです。

更にちよつとおまけ。大正時代、鉄道ができる前の地図を引っ張り出してくると、近所の海岸沿いに民家があり、浜から街道に通じる山道があったことが記されています。こちらの道も現在では跡形もありません。

上図；昭文社「スーパーマップル北海道道路地図」2000年7月1版16刷

中図；国土地理院2万5千分1地形図「礼文華峠」昭和42年測量・昭和43年発行

下図；国土地理院5万分1地形図「辨辺」大正6年測量・大正8年発行

Point!

いつ頃訪ねていくのがお薦めかと問われれば、5月が一番のお薦め。雪もなく、まだ草も伸びていないので見通しがよく歩きやすい時期です。

逆に訪ねていくと悲惨な時期は言わずもがな雪の時期、特に1月から3月ころまでは雪に閉ざされ雪装備無しでは駅から全く動けなくなります。

初めの場合には6月から8月頃までの夏期も避けた方が無難かも知れません。草深く、道はあってもわかりにくいことがあり、やはり駅から動けなくなってしまうことがあるためです。





ここを通る者、全ての望みを捨てよ！
（古典的な挨拶ってやつさ！）

ならばそこには
先人が捨てていった望みが落ちているはず

そこは希望にあふれた場所だ

岩屋観音の沢の上流には5つの砂防ダムが存在する。

その管理のためか、国道37号線礼文華トンネルの静狩側出口付近から砂防ダムへ続く林道が存在する。

砂防ダムから沢を降りて岩屋観音へ。釣り人にはよく知られたルートのように、沢沿いには「整備の悪い登山道」が続いている。

それは即ち、「秘境」からの脱出ルート。



覚悟ができたなら岩屋観音からひたすら沢を登ります。前章でも挙げた上の写真の、倒木を超えていく先が砂防ダムへ続く道です。整備された道ではないけど、道なき道ではない。結構歩いていきます。

軍手は付けたか？

汚れても平気な服装か？

カメラはバッグにしまったか？

神様にお祈りは？

部屋の隅でガタガタ震えて命乞いをする心の準備はOK？（絶対違う）



※ 図中†印は砂防ダムを示す
図中Y印は分かれ道を示す

踏み分け道は沢の左岸（上流から見て左手）に沿って続いています。左岸が通れない一部区間は沢の反対側に渡ることになります。足を濡らすことはありませんが親切に橋が架かっているわけでもありませんし、その他の場所も滑りやすくなっていることがあります。荷物類は必ずリュックに入れて、両手を使える状態にして登って下さい。カメラなどもしまっておいた方が無難でしょう。

そんなこんなで岩屋観音から10～15分ほど沢を登るとひとつめの砂防ダムが出てきます。これを左手に見て更に沢を登り、沢を渡ってZ字に斜面を登るとふたつめの砂防ダムを右手にかすめます。更に登ると、車の通れる広い道に合流します（地図上Y印地点）。岩屋観音から15～20分ほどで到達できるはずですが、あとは道なりに歩けば、15～20分ほどで国道37号線礼文華トンネルの静狩側出口付近に到達できます。

さあ、国道まで到達できたなら、一緒に叫ぼう。
「我々は遂に

秘境からの脱出を果たしたのだ！」

ここまで小幌駅から足の速い人なら45分程度といったところです。ここから更に小幌駅の隣駅・礼文駅や静狩駅まで歩いていくことももちろん可能です。小幌駅から礼文駅まで、2時間くらいですね。実測で。



ここから先がまた
遠いんだこれが・・・

礼文華観光案内

さて、地図を再掲して今度は岩屋観音からJ地点までの海岸ルートを紹介しますが・・・その前に、この先は潮位によって通過できる時期が限られていますので、潮位に関する基礎知識を。

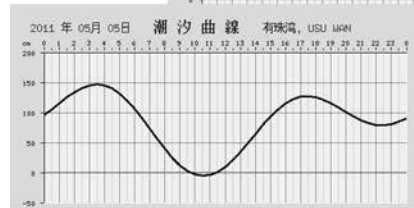
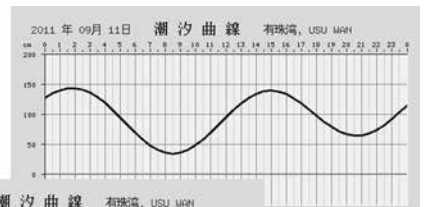
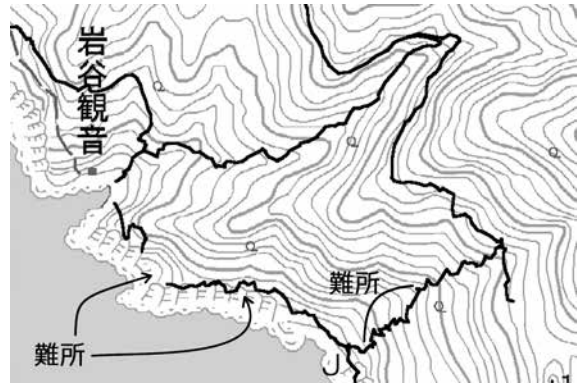
満潮・干潮という言葉は皆さんわかりますよね。では大潮とか小潮では？ これも何となくイメージは持っていると思います。大潮は干満の大きい時期で、満潮になれば思っきり海がせり上がってきて、干潮になれば思っきり波が退く時期のことです。小潮はこれが小さい時期ですね。では、同じ「大潮の干潮」でも時期や時間帯によって潮位が大きく変わることはご存知でしょうか？

右図は第一管区海上保安本部海洋情報部のWeb Site から拝借した有珠湾（礼文華から最も近い観測地点）の潮汐曲線です。左下が5月、右上が9月、どちらも大潮の日の予測データですが、違いがおわかり頂けるでしょうか。

潮汐データは第一管区海上保安本部海洋情報部のほか tide736.net などでも参照できますので、必ずデータを確認してから出かけて下さい。本章で「干潮時のみ通過可能」としている場所は概ね潮位が45cmを切る場合に通過可能、海岸沿いで「難所」とした場所は0cm 攻めの時にもみ通過可能です。

さて、潮に関する基礎知識を身に付けたところで岩屋観音から南に向かって歩き出しましょう。なおここからは**干潮時のみ通過可能**です。通れる場所が見当たらなければ諦めましょう。いろんな意味で。

岩の海岸を越えていくと第一の難所に辿り着きます。入り江になっているんですが、岩の裏側を通ったりしてGPSのデータが切れてしましまして・・・ルートを示す線が切れているのはそのせいです。ついでに思っきり潮の引いたときのみ通過可能な**難所**です。さらにその先は足場の狭い場所があり、岩壁に打ちつけられたロープを挿んで通過します。足下は・・・見ない方が良いでしょう。



地の果てを目指してみろ -権利平方面

初級

中級

資料ほか

上級

特級



さて、第一の難所を越えていくとももなく次の難所に到達します。海に突き出た岩の上を通りませんが、狭い足場から滑れば海にドボンですから気を付けて下さい。その後、岩から飛び降りれば玉砂利の海岸です。

飛び降りた？ はい飛び降りました。帰りはどうするの？ **一方通行です。** だから「難所」なんです。帰りにここを通ろうとすると岩によじ登らなければならないんですが、波で削られて引っかかるようなところがない上にオーバーハングしています。これだけならまだ登る余地があるかもしれませんが、潮位0cm 攻めの引き波時のみ岩の下が海から露出します。つまり波が来れば足が濡れます。

足を濡らす場所は通過可能としないというのが本書のポリシーですから、ここは一方通行ということになります。そばにある岩を伝って登れないかと挑戦してみました。登山素人には無理でした。

それじゃあ帰りはどうすればいいかって？ J地点から山ルートを進んで下さい。もちろん山ルートの入口がどこにあるか知っていなければいけませんので、要注意です。

その先は平岩の汀渚を通ってJ地点に至ります。満潮時には海没する場所で、海草類が繁っているためによく滑るので注意を。

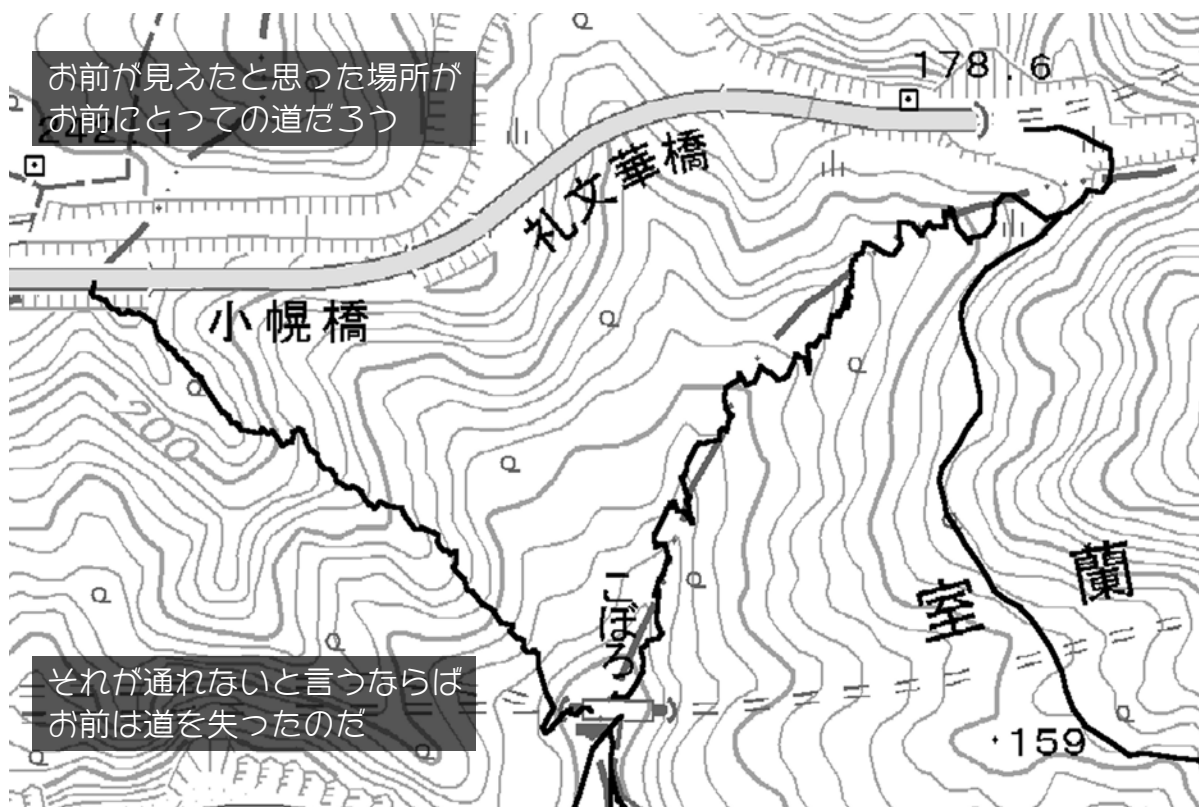
岩屋観音からここまで、25分程度です。



Point!

とにかくこのコースを進む際には潮位に注意すること。氷雪路歩行向けのショートブーツ（冬靴）で良いから足首を保護し、濡れた場所でグリップの効く靴で行くこと。そして海藻の張り付いた岩の上にはできるだけ足を置かないこと！痛い目見るぞ！

礼文華観光案内



見て頂いての通りです。国道から最短ルートで小幌駅を目指します。解説するまでもなく道ではないので、ちょっとしたポイントだけを押さえて解説します。あとは自力で道を拓いて下さい。

小幌駅への直行ルートは大きく2つ、西の尾根ルートと、東の沢ルートです。どちらを攻める際にも注意することはひとつ。国道から駅を目指すこと。逆をやると目標地点が定まりにくいため、道を違えます。登山は山頂の一点を目指す登りよりも、麓のどこかにある登山口を目指す降りの方が遭難しやすいというのと同じ理屈です。

えーと、道でも何でもないところを通るので、解説写真も何も無いんですよというか、示しても何の参考にもならないというか・・・とりあえず西の尾根ルートを先に解説しますが、えーと、国道から掘割の土手に付けられた階段を上って尾根に出て、あとは尾根沿いに進んで下さい。以上。

大雑把な解説にも程がある。確かに、えーとです、このルートはものすごい笹藪が行く手を阻み、笹が雪に埋もれる時期以外の通過は非常に困難です。あたしは春先秋口に突っ込んで何度も攻略失敗しました。雪の時期でも勾配が急であったり、下に笹が埋もれている関係からか雪を踏み抜いて填ったり、なかなか酷い目に遭います。地図上のトラックログがガタガタになっているのは、勾配がきついためジグを切りながら歩いた結果です。

挑戦する物好きなんかないと思いますが、当然こんなルートはお薦めできません。小幌駅への徒歩は素直に岩屋観音を回しましょう。ちなみに国道からの所要時間は40分程度です。

さて次は東の沢ルート。こっちの入口は岩屋観音から砂防ダムを経て国道へ至るルート・・・の、林道ゲート脇がルートの入口になります。



←写真でなんとなくわかって頂けるでしょうか。林道ゲートの脇に小さな谷状になっているところがあり、ここから幌内の谷に入っていくことができます。上の方は良い意味で「荒れ地」になっていて、結構歩きやすいんですが・・・しばらく降りていくとコンクリートの土止めにぶちあたります。歩きやすいのはここまで。ここから先は沢に沿って、とにかく心眼で道を開いていくことになります。沢の右岸を歩けばいいのか、左岸を歩けばいいのか。それは現地を確認して下さい。とにかく歩けそうなところをかき分けていくことになります。尾根ルートは笹が凄いですけど、こちらはヤマブドウだか何だかのつる木や、オオカメノキだかなんだかの低木が行く手を阻んでいます。

で・・・歩いていると必ず「これ以上進めない」というところが出て来ます。そういうときは沢の反対側に渡ってみましょう。その場では渡れずとも、ちょっと上流に戻ってみたり、倒木を橋代わりに渡ってみたりすることで道が開けることが多くあります。結構勢いのある沢なので、水の中に足を突っ込むことはお薦めしません。足を濡らす場所は「通過不能扱い」というのが本書のポリシーです。先地の図上で線がガタガタいつているのは行きつ戻りつ沢を渡りつ・・・していたせいです。いずれにせよ、小幌駅まで歩いていくルートとしては当然お薦めできません。素直に岩屋観音を回りましょう。ちなみに国道からの所要時間は30分程度です。

ところで小幌駅北側の保線小屋からさらに北に120mほどの場所、まだまだ藪の中で駅も見えないか見えないか・・・という場所なんですが、←こんな杭を発見しました。赤い頭と、側面に入った工部省のマークから鉄道敷地境界の杭のようです。何でこんな線路から離れた山の中に・・・と考え込んでしまうのですが、かつての小幌駅周辺は谷の中のかなり北側の方まで開けていたようです。今じゃ藪に埋もれてしまっていますけどね。

礼文華観光案内

研究者というのは大変因果な生き物で。

自分の研究成果なり発見なりを書き残して他人や後世に伝えなければいけないのに、論文を書くのは大嫌いだという人が少なからずいるそうで、心当たりがありすぎてあはははは。

足かけ4年に渡るあたしの礼文華 小幌探索も、この本の完成をもってひとつの区切りを迎えます。ああ、いろいろありましたさあ。小幌駅に歩いていける道があるという話の詳細を初めて耳にしたのが2007年末だったか、2008年初頭だったかの話。何故かそんな阿呆な話に興味を持ってしまったのがあたしの運の尽き。それをネタに何か一発ブチ上げられないかな、雪が消えたら調査に行こう！・・・なんつってたら2008年3月に突然「おまえ来月から東京出向な？」と告げられ東京へぶつ飛ばされ調査どころではなくなり。そのほかいろいろあって「やってられるかー！」とブチ切れて北に戻ってきたのが1年後の話。しかし休日に気力切れ起こしたり、仕事の休みに晴れなかつたりとなかなか取材は進まず。なんとか2010年春にはエッセンス部分を詰め込んだPreviewを世に送り出すことはできましたが・・・執筆中の4月に不調を起こして倒れ、続いて6月にも倒れて半ばドクターストップがかかるカタチで休養のため離職。当然取材なんて気力もなければ無職なので交通費を捻出するのも辛い。そんな状況の中4度目の春を目の前にして・・・なんとか完成したのが不思議なくらいですね。調子も何とか取り戻して、最近仕事に復帰することもできました。みやみや。

身の上話はこれくらいにして。

初めは小幌をネタにしたちよつとした本を作る予定だったんです。ところが欲が出てきてというかなんというか、気が付けば駅や鉄道からかなり離れたところにまで手脚が伸びてしまいました。

現代のちよつとした秘境というだけではなく、昔から人の避けて通る土地であったこと、それだけに風光明媚な場所も多いことなどを知って頂ければ、あなたが小幌駅を訪ねる際の楽しみに一抹の香辛料となるはず。そのことを期待しています。

ところであたしが初めて小幌駅を訪ねたのは2002年8月のこと。青春18きっぷの消化のために「怖いモノ見たせ」で1時間半の滞在でした。しかし草深い駅から一步も動くことができず、得た感想は「頼まれてもしない限り2度と来るもんか」でした。どうしてこんなコトになってしまったんでしょう。世の中不思議がいっぱいです。あの頃の自分がこの本を見たら、それを自分が執筆したと知ったらなんと言うでしょうね。

さて、次の本はいい加減に鉄ネタから離れます。掌編というか絵本というか、そんな感じのシリーズのようなそうでないようなネタが数本頭の中にできあがっているんで、少しずつカタチにできればと思います。題して「えんじ色の二等客車」・・・あれ、鉄ネタから離れていないような気がするぞ。

とりあえず絵に関しては引き続き精進します（滝汗）この本に使ったカットもいくつか「うわしまった」な点を発見していますが、差し替える時間もないのでそのまま使います・・・ちつきしよお。でも紫雅さんが左手で箸を持っているのは仕様ですよ。仕様。

末筆になりましたが、上級編ルートの探索にあたり、甘藷岳山荘のあまいものご氏よりいろいろアドバイスを頂きました。ここに感謝の意を。

2011年 礼文華の春を待つ頃
荒れ果てた自室にて
水瀬雅美 拜

本書は2008年3月～2011年3月の現地調査を元に執筆・編集しました。
特記無き地形図は国土地理院2万5千分1地形図「礼文華峠」を利用しました。
アイヌ語地名はあまいものこ@甘諸岳山荘の調査・解釈に依いました。

参考文献

- 渡辺茂・編「豊浦町史」(1972)
新・豊浦町史編纂委員会「新・豊浦町史」(2004)
森美典「豊浦町・洞爺湖町・伊達市・壮瞥町のアイヌ語地名考」(2008)
電気車研究会「鉄道ピクトリアル」No.609(1995)
北大解剖教室調査団「小幌洞窟遺跡」(1963)

調査協力

あまいものこ@甘諸岳山荘 <http://amaimonoko.at-ninja.jp/>

礼文華観光案内

水瀬雅美

<http://lavenderblue.jp/>

発行：虹の卵 <http://www.nijitama.jp/>

発行日：May5/2011

印刷・製本：

Do you know an island just like the "Shangri-la" ?
You've never known about, you've never seen before,
she is fully filld with something such.
You find her immediately if you board the carmine carriage.

礼文華観光案内

汽車で行ける北の秘境・礼文華小幌。
降りても何も無い！駅から外に出られない！
その幻想に真っ向勝負！



Section#1 初級 ~ 列車を降りれば、カーニバルが始まる。
「小幌駅」いんとろだくしよん

Section#2 初級 ~ 意外ないろいろ、駅周辺。
見て歩く「秘境」

Section#3 中級 ~ ここを通る者、全ての望みを捨てよ！
「秘境」からの脱出

Section#4 中級 ~ かつて旅人はこの地を避けて通ったという。
酷道37号線・礼文華峠

Section#5 中級 ~ だからこそ行ってみたいと思わない？
夜の小幌駅／冬の小幌駅

Section#6 資料 ~ ふたりは 戦争遂行のために生まれた。
ふたつの礼文華峠信号場

Section#7 上級 ~ 礼文華 小幌の、最果ての風景。
地の果てを目指してみる

Section#8 特級 ~ 小幌駅への「正しい」徒歩ルート。
その扉をこじ開ける！

Section#9 資料 ~ ドライブがてら、寄ってみよう。
礼文華の鉄スポット

Section#10 資料 ~ ここまでの説明でわかった気になってない！？
もっと！礼文華観光案内

にじのたまご

Do you know an island just like the "Shangri-la" ?
You've never known about, you've never seen before,
she is fully filled with something such.
You find her immediately if you board the carmine carriage.